

成績 機能正常者, 平均 4.25 ± 1.01 (42 例), 亢進者 12.67 ± 4.17 (20), 低下者 1.30 ± 1.18 (20) で正常者と低下者間に若干の重なりを認めた。以上両 kit とともに, 使用血清量が少なく, 操作も簡単な点, 有用な検査法と思われる。

ほぼ一致した。しかし, 2.5 ng/ml 以上では第一 kit で測定された値が Schwarz/Mann kit のそれに比し低値であつた。以上の結果は両 kit の標準曲線の測定可能範囲の差によるものと考えられ, その広い Schwarz/Mann kit が日常検査として使いやすくと考えられた。

11. 血中 Digoxin の Radioimmunoassay, とくに市販キットの比較について

田辺恵三子 春名 桃江 高橋 浩

(天理よろづ相談所病院 臨床病理部)

稲田 満夫

(同 内分泌内科)

われわれは第一 RI 研究所製 Digoxin Radioimmunoassay kit を使用し, 日常臨床に利用してきたが, 今回, 米国 Schwarz/Mann 製 kit を入手したので, 両者を比較検討した。第 1 kit は ^3H -Digoxin, また Schwarz/Mann kit は ^{125}I -Digoxin を用い, いずれも B と F の分離に Dextran coated charcoal を使用した一抗体法であつた。

第一 kit の標準曲線は Digoxin 濃度 0.25 ng/ml より 2 ng/ml まで急峻に下降し, 以後なだらかになつた。一方, Schwarz/Mann kit のそれは 0.4 ng/ml より 5 ng/ml の範囲で良好な曲線が得られたが, % Bound の変動は第一 kit に比べやや緩慢であつた。

両 kit 用いての希釈試験はともに良好な結果が得られ, また回収率試験もともに満足すべきものであつた。さらに標準曲線の再現性もきわめて良好で, 両 kit の安定性が認められた。

測定値の再現性をみると, まず多重測定時の変動は両 kit とともに少なかつた。一方測定値の日差変動をみると, Digoxin 濃度 2 ng/ml 以下の血清の日差変動は少ないが, 3 ng/ml 以上の血清では第一 kit の場合に変動が大であつた。

また同一血清中 Digoxin 濃度を各第一 kit と Schwarz/Mann kit で測定した値を比較すると, 0.5 ng/ml より 2 ng/ml の範囲では, 両測定値は

12. ジギタリスの研究 (第 I 報)

— Radioimmunoassay による血中 digitoxin 測定法の検討 —

藤谷 和太 郡 義隆 長井 勇

友松 達弥

(神戸大 第 1 内科)

CEA-IRE-SORIN association の供給による radioimmunoassay kit により血中 digitoxin 濃度を測定した。採血は早朝空腹時に行い, 当日中に測定を完了した。測定値の標準誤差は $\pm 7\%$ であつた。digitalis 中毒の徴候の認められないもの 19 例についての測定値は, 0.05 mg/day 以下の投与群では 10 ng/ml , 0.08 mg/day 群では, 19.8 ± 7.0 , 0.1 mg/day 群では, 17.3 ± 7.6 , 0.12 mg/day 群では $19.5 \pm 2.5 \text{ ng/ml}$ であつた。

13. Competitive Protein Binding Assay による各種循環器疾患の血中コーチゾル値についての考察

安本 詔夫 陳 建新 小亀 一必

伊藤 芳久 上羽 康之 友松 達弥

(神戸大学 第一内科)

種々の外的侵襲, あるいは内的障害の発生時に, 内部環境維持のために自律神経系, 下垂体・副腎系等の作動が考えられる。この点についてわれわれは, 各種循環器疾患, ことにうつ血性心不全, 心筋硬塞発症時における心原性ショックに際し, 交感神経活動の亢進があり, それが循環不全の改善に資することを明らかにしてきたが, この報告で